〝スポーツの美〟見せる JIUアスリートに熱い声援を!

JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY JIU
城西国際大学Sports
発行者:〒283-8555 千葉県東金市求名1番地　城西国際大学
新入生歓迎特別号
2019年4月 vol.7

春――。キャンパスに行き交う新入生を暖かい日差しが包み込む。練習に打ち込む選手たちの「掛け声」が聞こえてきた。勉学・スポーツに励み、広く世界と地域と交流を深める。ＪＩＵは、そうした若者が集う場所である。

ＪＩＵアスリートよ、新入生に、在校生に、地域の人々に、「スポーツの美」を見せてほしい。そしてあなたも応援団の一員となって熱い声援を送ってほしい。

「スポーツにエールを」

上原 明
理事長

新入生の皆さん、ご父母の皆さん、ご入学おめでとうございます。

今年は9月からラグビーワールドカップ2019が日本で開催されることになっています。ラグビーのスポーツ精神を表す「One for All, All for One」という言葉があります。この精神は、信頼と正義と尊敬を重んじる武士道と相通ずると思っています。この「Ａ出」という言葉はチームメイトのみならず、全ての国々、全人類という意味にもなると考えます。日国第一主義を唱えることの多いこの時代に、国境を超えるスポーツ、Ｗ杯やオリンピックの持つ役割は大変大きいと考えます。

さて、大学で学ぶ学生諸君には改めて「学ぶ」ことの意味を考えて欲しいと思います。

先ずは「生涯学習」の覚悟を持つことが肝要です。現代は科学・技術・情報等の急速な発展により社会が大きく変化しています。大学での４年間あるいは６年間で学んだことも すぐに過去のものとなってしまうことがあります。この変化に対応し続けていくためには、社会人になっても「生涯学び続ける」覚悟を持つことが必要です。

次に、絶えず「なぜか」の問題意識を持つことが大切であるということです。目の前で起こるあらゆることに対して、なぜそれが起こるのか、もっと別の良い方法がないのかという問題意識を持つことです。問題意識のないところには改良・改善・改革はありません。

三つめには先人・他人・自分から学んで欲しいということです。①ギリシャ、ローマ、中世の時代の賢人が考えて書き残したことから「学ぶ」、②自分とは民族・宗教・文化・習慣等が異なる他人から「学ぶ」、③問題意識に基づく解決策を立てるための仮説を自分で立て実行し、その結果検証から「学ぶ」、この３つの「学ぶ」が重要です。

最後に最も重要なことは、自分の人生は自己責任であるという覚悟を持つことです。「明日の自分は、今日自分が何を考え、何を実行したかの結果である」と私は思っています。

人生百年と言われるこの時代、皆さんの前には80年もの未来があり、それをいかに過ごすかという、大きな命題が待ち構えています。大学時代に学びの基本を身に付け、身体を鍛え、情操豊な感性を磨いて、自分自身の未来へ歩み出す準備をしてください。

【略歴】
1941年4月生まれ、東京都出身。1966年慶應義塾大学経済学部卒、日本電気を経て1977年大正製薬入社、1982年代表取締役社長、2011年大正製薬ホールディングス代表取締役社長(現任)
▶**団体役員など**――日本大衆薬工業協会会長、世界大衆薬協会会長、上原記念生命科学財団　理事長
▶**大学関係**――城西大学評議員・理事(1979年～)・理事長(現在)、成蹊学園評議員(1988年～)・評議員会議長・理事(現在)、慶應義塾評議員(1990年～)・理事(現在)

ご入学おめでとうございます

杉林 堅次
学長

新入生のみなさん、ご父母のみなさん、ご入学おめでとうございます。この記念すべき春の日に城西国際大学（JIU）の門をたたいたみなさんを、教職員一同、心から歓迎いたします。

我が国は人口減が始まり少子高齢化もさらに進んでさました。新入生の皆さんの中には22世紀を経験する方もおられると思います。AIや自動化ロボットの発展は、すべての人に恩恵をもたらしますが、同時に今までの考え方だけでは成り立たない時代となります。

本学は、1992年に設立され、30年近い歴史を刻みました。学校法人城西大学は開設されてから、すでに半世紀以上が経っています。政治家・蔵相として戦後の日本の復興・発展への道を切り開いた創立者の水田三喜男は、教育と人材育成を念頭に「学問による人間形成」を建学の精神に掲げました。このキャンパスには、いまもその精神が宿り、学生は勉学・研究に励んでおります。

本学では、この時代の変革期にあって、学生一人ひとりが可能性と夢を見つけ、個性を磨き、社会に役立つ能力を開発していくための教育プログラムと学生生活を支援するための環境の整備に努めております。果てしなく広がる地平線のように、JIUでは「教育の地平線」とともに「スポーツ・文化活動の地平線」も広がっています。JIUでのスポーツ・文化活動を通じて、よりよい学生生活を送ってください。

全日本大学選手権に出場し 日本一目指す　硬式野球部

大分キャンプで指導する佐藤監督（左）

■プロフィール
部　長　七井誠一郎（経営情報学部教授）
監　督　佐藤　清
コーチ　田中成明
　　道方康友
　　笹川慎吾
　　市川雄大
主　将　梅田裕斗

大分キャンプで実践練習に励む選手たち

「去年の経験を活かし、勝つ年に」（佐藤監督）

現在、部員は、マネージャー、学生コーチらを含め、177人の大世帯。今春、51人の新入生が入部した。佐藤清監督が率いる「JIU野球」に魅かれ、北海道から沖縄まで全国各地から集まった。部員の出身高校をみると、天理、花咲徳栄、木更津総合、作新学院など一甲子園出場校”が目立つ。

佐藤監督は、奈良・天理高校、早稲田大学、日本生命のチームでスラッガーとして活躍し、2007年にJ-Uの硬式野球部の指導者となった。以来、千葉県大学野球秋季リーグ戦3度優勝、春季は5年前に初優勝を成し遂げ、1992年の創部以来、全日本大学野球選手権大会も初めての出場となった。

今春も7月日から13日間、大分で合宿を組んだ。チームの目標は、やはり全日本大学野球選手権に出場し、日本一を目指すことだ。今春からは、新たに道方康友、市川雄大両氏がコーチ陣に加わり、指導体制が充実したのも強みだ。

2018年は、春季・秋季リーグとも4位の成績で終わった。しかし、秋季リーグ戦途中からは自分たちの戦いができたという。その中で、期待を新たにスタートする新チームは、攻撃陣では、主軸の八木佑馬（4年・習志野・経営情報）のほか、岸添有哉（4年・生浜・経営情報）、村上広瀬（3年・西条・経営情報）、福山龍旺（3年・仙台育英・経営情報）、篠崎浩一（3年・花咲徳栄・経営情報）、高橋哲貴（3年・花咲徳栄・経営情報）、花岡小次郎（3年・八戸学院光星・経営情報）らの活躍に期待したい。

投手陣では、右腕の宮崎一希（3年・進修館・経営情報）、中島隼也（3年・仙台育英・経営情報）、山本竜也（3年・御所実業・経営情報）、左腕の徳永大地（3年・白樺学園・経営情報）、アンダースローの長井陸（4年・阪南大学・経営情報）など、様々なタイプの投手が揃っている。

バッテリーを組むのが、新主将の梅田裕斗（4年・長崎日大・経営情報）だ。昨年の春季リーグ戦からマスクをかぶっている。投手のリードに今後の期待がかかる。

期待の新人は、野手では倉持賢太（1年・花咲徳栄・経営情報）の攻守にわたるプレーに注目したい。また、右腕の中田優斗（1年・花咲徳栄・経営情報）、左腕の最姿孫也（1年・長崎日本大学・経営情報）らの投手陣も今後の成長が楽しみだ。

佐藤監督は「昨年はケガで実力を充分発揮できなった選手が多かったが、今年は春季リーグ戦に向けてチームが仕上がってきている。主力は3・4年生になるが、そのほかの選手の育成にも取り組んでいきたい。バッテリーはできるだけ失点を抑えて、打撃はクリーンナップで点を取れるような チームにし、走塁にも力を入れていきたい。去年の経験を活かして、今年は全日本大学野球選手権大会の出場を狙えるような、勝つ年にしたい」と意気込みを語った。

新コーチも加わり指導体制充実

道方コーチ

「早稲田大学野球部では佐藤監督と同期で、佐藤監督のチーム作りは熟知している。また、佐藤監督が本学硬式野球部監督に就任してからもサポートしていたので、本学硬式野球部についても良く知っている。野球を通じた人材育成をめざしたい。コーチとしては、守りを固められるような投手を育てていきたい」（談）

市川コーチ

「2年生までは捕手だったが、それ以降は学生コーチとしてバッテリーを担当していた。去年のレギュラーメンバーがおおよそ残っているので、その経験を活かして、全国大会出場をめざしたい」（談）

記者募集

記事を書いてみませんか。初心者でも大丈夫です。新聞記者経験が長い職員が取材、書き方を基本から指導します。写真、イラスト、漫画などでも協力してくれる学生も募集しています。

連絡はこちらまで▶03・6238・1241
学校法人城西大学法人本部
広報センター

JFE西日本前監督の村上氏が特別コーチに就任　JUから②　硬式野球部

城西大学の硬式野球部の特別コーチに社会人野球「JFE西日本」の村上文敏前監督が就任した=写真。秋のリーグ戦では監督として指揮を執る。硬式野球部は新体制で3年ぶりの1部昇格を目指す。

村上特別コーチは駒澤大学を経て1982年、JFE西日本の前身「NKK」に入社。遊撃手として活躍し、96年に監督に就任。2003年に発足したJFE西日本でもチームを率いて都市対抗野球と日本選手権に各5回出場した。

村上特別コーチは2月の長崎合宿からチームに合流。小原沢重顕監督は「練習から改革をやってもらっており、選手の意識も変わってきた」と話し、大球享平新主将（経営4）も「最初は戸惑いもあったが、いい方向にまとまってきて確実に去年までと違う雰囲気を感じている」と言う。村上特別コーチはチームについて、「能力のある選手が多い」として、「それを試合で結果として出させるのが、我々の仕事」と話す。「人間の力がプレーに反映される。大学の軸となる人間になってほしい。それが、2部で勝ち、1部で優勝し、さらに日本一になることの第一歩」と語った。

柳沼楽人（経営2）を中心に打撃陣も大きく改革されたという。昨秋はケガで離脱していたエース唐沢裕貴（経営3）の復帰は心強い。大球主将は「1部を知っている代は自分たちが最後。後輩には1部でプレーできることの素晴らしさを伝えたい」と話す。昨秋、2部1位だった明星大学との開幕戦を制して勢いに乗りたい。

タレント豊富な新チームで〝壁〟突破へ　JUから①　男子駅伝部

集団走を行う選手たち

■プロフィール
部　長：小野正人（経営学部教授）
監　督：櫛部静二（経営学部准教授）

有力新入生		
	佐藤礼旺（仙台育英）5000mベスト 14分24秒91	藤井正斗（名古屋経済大高蔵）5000mベスト 14分31秒40
	熊谷 翼（大分東明）5000mベスト 14分25秒19	土子将輝（水城）5000mベスト 14分41秒31

姉妹校の城西大学の男子駅伝部が再起のスタートを切った。新主将は箱根駅伝を2回経験している西郷雄伸（経営4）に決まった。「何か変われるというきっかけをもらったと思っている。見て見ぬふりではなく、背中でも口でもしっかりと（チームを）引っ張っていきたい」と、主将としての抱負を語る。

出雲駅伝、全日本大学駅伝とも8位入賞と勢いをつけて臨んだ今年の箱根駅伝だったが、まさかの20位に沈んだ。西郷も4区15位に終わった。「悔しい思いをして、この1年が大事になってくる。目標だった過去最高・総合5位にこだわって、スローガンである『歴史を塗り替える』を維持し、チャレンジする気持ちを忘れずに全員一丸となって戦いたい」と言葉に力をこめる。

強い4年生は卒業したが、新チームには西郷のほか、1万㍍でチーム1の記録を持つ新エースの荻久保寛也（経営4）、進境著しい大里凌大（経営3）や菅原俊織（経営3）らタレントが豊富だ。それぞれの〝壁〟を突破するような走りを期待したい。

地域とスポーツ

JIUは、開学以来、「地域振興とスポーツ」もスローガンに、高校生、中学生、小学生らに「スポーツの場」を提供してきた。

水田三喜男杯争奪 選抜高等学校 柔道大会

2018年12月26日、東金キャンパスのスポーツ文化センターで「第18回水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」を開催した。

男子決勝は通算2回目の優勝を目指す修徳高校（東京）と大牟田高校（福岡）の対戦となり、大牟田高校が勝利し、初優勝を果たした。

女子決勝は、昨年に引き続き、決勝戦進出となる富士学苑高校（山梨）と2回目の優勝を目指す藤枝順心高校（静岡）の対戦となり、富士学苑高校が勝利し、初優勝。

本大会は創立者の水田三喜男先生が柔道にいそしんでいたことにちなみ2001年にスタート。現在では全国の強豪校が集う大会として年末の風物詩となっている。

水田三喜男旗争奪 選抜高等学校 剣道大会

年が明けて2月3日、「第18回水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会」がスポーツ文化センターで開催した。本大会も水田三喜男先生が志した文武両道の精神を受け継ぎ、心身の優れた人材育成をめざして行われている。当日は全国から106チームが参加し、過去最多の出場チームになった。前日は千葉県内の高校と県外のチームが練成会に約80チームが参加した。

男子は連覇を目指す東海大管生高校（東京）と横浜高校（神奈川）の決勝戦となり、横浜高校が初優勝を果たした。女子は、翔濤高校（千葉）と連覇を目指す阿蘇中央高校（熊本）が決勝戦に進出し、阿蘇中央高校が4度目の優勝に輝いた。

昨年に引き続き、海外から韓国選抜チームも参加した=写真。国内で選考会を行い、強化合宿を経て、本大会に臨んだ。結果は予選リーグを突破したが、決勝トーナメントで惜しくも敗退した。

川淵三郎杯 城西国際大学 少年サッカー大会

2月23日、「第6回川淵三郎杯 城西国際大学少年サッカー大会」を高円宮殿下記念スポーツパークで開催した=写真。

同大会は、スポーツを通して次世代を担う青少年の健全な育成に寄与し、サッカーの普及・発展に努め、地域のスポーツ振興に貢献することが目的。6回目となり、地元に定着している。山武郡市の少年サッカーチームが集い、川淵三郎杯をめざして熱戦を繰り広げた。試合は15分ハーフで計30分のトーナメント方式。FC.FRIENDS（大網白里市）が決勝戦で、ときがわFC（東金市）を下し2年ぶり2度目の優勝を飾った。

高円宮殿下記念スポーツパーク

この大会を支えているのが高円宮殿下記念スポーツパーク。2012年5月、創立20周年記念事業の一環として公式試合が可能なサッカー場を備えたスポーツパークが完成した。スポーツ振興や国際交流活動に尽力した高円宮殿下（2002年薨去）のご功績を称え、またそのご遺徳を次代に継承すべく「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS　PARK（高円宮殿下記念スポーツパーク）」と命名された。

竣工式には高円宮妃殿下にご臨席願い、メモリアルゲートの除幕を行っていただいた。スポーツパークは東金キャンパスに隣接し、約3万3000平方㍍の広さ。サッカー場とクラブハウスおよび多目的広場などの施設を有している。

サッカー場の面積は約1万750平方㍍。選手らの健康管理に配慮し、夏場における表面温度上昇を抑えるような人工芝を施している。また、ナイター設備もあり、ピッチには約300の観覧席を設けている。クラブハウスは延べ面積約450平方㍍。監督室やミーティングルーム、ロッカールームなどを設けるとともに、屋上に60名収容の観覧席を配置している。

スポーツパークはサッカー部が利用するほか、青少年の育成など地域のスポーツ振興に生かしてくとともに、スポーツを通じての国際親善・交流活動の拠点としても活用している。

医務室から

麻疹・風疹ワクチンは2回お済ですか?

2007年に10～20代に麻疹が大流行し、休講等の対応をした大学が多く出ました。その後、20代から40代を中心に風疹の流行があり「先天性風疹症候群」が問題になりました。これらの流行の一因に予防接種を１回のみしか実施せず、免疫が低下したことがあげられます。その後、国として１回しかワクチンを接種していない年代にワクチン接種を追加するようにしました。これを受け、本学でも入学時に母子手帳のコピー提出により麻疹・風疹ワクチンを２回実施しているか否かを確認しています。

国の勧め通りに実施していれば下記表のようになります。

生年月日	ワクチン実施回数
昭和54年４月１日以前	０回
昭和54年４月２日～平成２年４月１日	１回
平成２年４月２日～平成７年４月１日	２回（高校３年時に２回目）
平成７年４月２日～平成12年４月１日	２回（中学１年時に２回目）
平成12年４月２日以降	２回

特に教職課程履修者及び医療・福祉系の学部は、外部実習に伴いワクチン接種歴を記載した証明書を作成するため、２回のワクチン接種は必須となります。

2018年も関西を中心に麻疹が流行しました。

麻疹の症状
① 感染から10～12日後の発熱・咳・鼻水・目の充血
② 頬の粘膜（口の中）に直径１～２㍉くらいの白い斑点
③ いったん熱が下がり、再度39℃程度の発熱同時に顔から全身にかけて赤い発疹が広がる
「③」の前が最も感染しやすい。完治するまで1週間前後かかり重症化すると入院も必要

麻疹は恐ろしい感染症です
残念ながら、マスクや手洗い・うがいでは予防できません。
感染を防ぐには、2回の予防接種を受けることが大切です!

Activity　文化・芸術・学術の話題ピックアップ

エアギター世界選手権 優勝 ――女優・エアギタリストとして活躍中

名倉七海さん（2018年3月 メディア学部卒業）

名倉七海さんは2018年8月、フィンランドで開催された「第23回エアギター世界選手権」で優勝した。名倉さんは、城西国際大学に入学した2014年にも同大会で優勝しており、今回が2度目の優勝となる。名倉さんは、いま、芸能プロダクションの大手、太田プロに所属し、女優とエアギタリストとして活躍している。

高校2～3年生の時に、「エアギター・アイドル」という五人組のグループで活動、そこでエアギターと出会った。オモチャのギターを持って歌って踊ってというグループだったが、ある時、エアギター選手権っていうのがあるから目指してみようっていうことになったしかし、グループは解散してしまい、それから1人でスタジオにこもって黙々と練習した。

アイドル・グループの曲用のレッスンは週に1～2回あり、ダンスの指導も受けていた。エアギター日本協会の会長に少し教わった。2014年に優勝した時の自分の動画を見ると「あんまりエアギターってないな、結構、ダンス要素が強いなと、思った」という。

そして、今回の2度目の優勝である。使う曲のギタリストのライブ映像とかを見て、この音のときこうやって弾いているとかを研究した。オーバーに飛び跳ねたりするのをやめて、ギター感を重視して、取り組んだ、という。

名倉さんは「次回は、ディフェンディング・チャンピオンとしてシードで行けることが決まっているのですが、次は何やろうと、優勝した瞬間から考えています」という。

最後に後輩の学生たちにアドバイス。「もっと英語の勉強しておけばよかったと思います。やりたいことはどんどんやった方がいいということと、大学時代って、いろんなことを後回しにしてしまうと思うのですが、面倒臭いから後でやればいいや、とか、そういうのはやめた方がいいと思います。授業もしっかり聴いて、英語とかも、もっとちゃんと勉強しておけばよかったと今、思う。後回しにしないで、ちゃんとやってください、っていうことかな」（※大学HPに詳細なインタビュー記事掲載）

Los Angeles Film Awards 2018「Best Makeup」受賞

撮影現場で仕事中の宮本さん（左）

宮本華緒さん（2017年3月 メディア学部卒業）

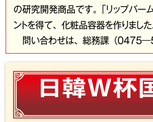
メディア学部を卒業後、米国の映画産業の中心地であるハリウッドに渡ってメイクアップ・アーティストを目指していた宮本華緒（Kao Miyamoto）さんが「Los Angeles Film Awards 2018」において「Best Makeup」を受賞した。「Kommando 1944」という作品で、映画は1944年7月、ドイツ軍の捕虜となった日系アメリカ人兵士の物語。350以上の国際映画祭や国内の映画祭に出品している。

宮本さんは、在学中1年間、米国の大学に留学。卒業後、単身ハリウッドに渡りメイクアップを学んだという。

メディア学部の教員は「メイクアップは、2018年のアカデミー賞で「ウィンストン・チャーチル　ヒトラーから世界を救った男」で特殊メイクを担当した日本人アーティストの辻一弘氏が、メイクアップ&ヘアスタイリング賞を初受賞しており、日本人の活躍できる分野。今後の宮本さんの活躍が期待できる」と評価する。

森洋子の空想化石 はくぶつかん 絵本原画と大石化石コレクション

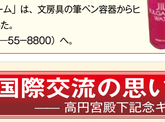
5月14日(火)～6月22日(土)　日・月休み



森洋子「空想化石はくぶつかん」原画

水田コレクション展 浮世絵の技巧

7月9日(火)～27日(土)　日・月休み



鈴木春信（六玉川 調布の玉川）

JIUグッズをお試しあれ!

本学が考案し、販売している「JIUグッズ」は、たくさんあります。大学祭などの行事に合わせて販売所を設けております。

写真はそのうちの一部で、左から「ブルガリアンウォーター」「ローズクリーム」「リップバーム」。この3点は、薬学が専門の杉林堅次学長の研究開発商品です。「リップバーム」は、文房具の筆ペン容器からヒントを得て、化粧品容器を作りました。

問い合わせは、総務課（0475―55―8800）へ。

日韓W杯国際交流の思い継ぐ ――高円宮殿下記念ギャラリー

東金キャンパスの「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS　PARK（高円宮殿下記念スポーツパーク）内に「高円宮殿下記念ギャラリー」がある。

高円宮殿下が開催運営に尽くされた「FIFA日韓ワールドカップ　サッカー大会」（2002年）ゆかりの貴重な品々を展示している=写真。国際交流における人と人との友好の大切さを説かれてきた高円宮殿下の思いを継承する場だ。地域住民の方も見学できるように開放されている。

【開館時間】10:00～16:00　【休館日】日曜日・祝日・本学休校日
＊見学希望の方は、事前に☎0475・55・8800まで連絡ください。

〈編集〉学校法人城西大学　広報センター　〈発行〉城西国際大学　総務課

大阪国際女子マラソン 必死の粘りに拍手を

阿部有香里さん（2012年3月、国際人文学部卒業）
――「しまむら」所属

月刊陸上競技提供

「もう少しのところだったのに……」と女子駅伝のファンはため息をついた。1月に行われた大阪国際女子マラソン。このレースで2020年東京五輪の代表選考会「マラソングランドチャンピオンシップ（MGC）」（9月開催）の出場のチャンスをつかみたかった。MGCに出場できるのは2時間28分0秒まで。阿部さんは、惜しくも届かなかった。わずか2秒差だった。

スポーツ紙などによると、阿部さんは日本選手3位の全体5位でゴールに帰ってきた。タイムは2時間28分2秒。ゼッケンナンバー「63」のランナーは自己ベストを7分45秒も縮めた。順位も自己最高だった。

レース後、阿部さんは「あっ～という感じです。最後の200㍍は必死で走ったけど、足が動かなかった。練習はしっかりできたしMGCを取りたかった」

35㌔から40㌔地点までの距離5㌔を18分15秒も要した。それでも最後の2,195㍍は全体で2位の7分38秒、初の浪速路で必死に粘った「走り」に拍手を送りたい。

阿部さんは、仙台育英高校からJリ Uに入学。在学中、女子駅伝では、4年連続で全日本大学女子駅伝対校選手権大会に出場。2008年には1区を走り、区間3位の好成績を上げている。

第57回愛媛マラソンに初優勝

大城優衣さん（2016年3月、経営情報学部卒業）
――愛媛銀行勤務

JIU在学中、女子駅伝部で活躍した大城さんが2月に開催された第57回愛媛マラソンに出場し、初優勝を飾った。タイムは2時間49分24秒だった。完走者数は1861人。

スタート時の天候は晴れ、気温は9.5度。暖かい日差しの中、コースでは上位争いが繰り広げられた。大城さんは20㌔手前でトップ選手を抜くと、その後は独走。後半もペースを落とさず後続を引き離した。

地元紙は「地元実業団として、それ以上に過去の自分を超えたくて、頂点を狙い続けた1年間。練習で走る距離を増やし、トラックでの記録も好調だったが、1月に右アキレス腱（けん）を痛めるアクシデントもあった。直前に練習ができない不安を、監督やコーチ、仲間の励まして乗り切った」と伝えた。

大城さんは沖縄市のコザ高校出身。2年、3年生と都大路（全国高校駅伝）に出場、高校卒業してからも、沖縄を出てレベルの高い大学で陸上競技をしたいと思い、城西国際大学に入学した。

大学を卒業して3年。後輩たちの活躍を楽しみにしているが、「大塚正美先生も監督に復帰し、競技、生活の面でも良い指導を受けることが出来ると思う。私達が出来なかった『全日本』に絶対出場して欲しい。久しぶりに城西国際大学のユニホームが仙台を走るのを沢山の方が期待していると思うので、ぜひ頑張ってほしいです。愛媛から応援しています！」とエールを送る。

輝く卒業生

「花を咲かせる土になれ」

鮫島浩二さん（2005年3月、経営情報学部卒業）
――松山城南高校教諭・自転車競技部監督

愛媛・新田高校では野球部の練習に明け暮れました。JIUに進学したきっかけは、河上國男さん（観光学部軟式野球部監督）にお声掛け頂いたからです。大学時代も硬式野球部でプレーをしました。原田勝美監督は、非常に厳しい方でしたので四年間、本当に苦しい練習でした。主将として悩み、苦しみ、涙したことも多かったように思います。今、ふるさとに本当に感謝されたと感謝しています。

教職の道を選び、いま、松山城南高校に勤務しています。部活動は、野球ではなく、自転車競技部の監督をやっています。自転車競技部は2016年度に創部されたばかりですが、小・中学時代に活躍した4人が入学しました。厳しく指導しました。その甲斐があり、2017年の全国高校総体（インターハイ）で完全制覇し、18年も総合優勝、2年連続の全国制覇を達成しました。

18年度の主な成績を紹介しますと、アジア自転車競技選手権・男子ジュニアロードで優勝、全日本自転車選手権大会ロードレース男子ジュニアで第1位（2年連続）などです。選手は、アジア選手権、世界選手権やネイションズカップなどの国際大会にも代表として参加、好成績を収めています。選手たちは東京五輪出場も視野に入れているでしょう。

こうした経験を踏まえ、後輩たちには「世の中に、また社会に求められる『じんざい』へと成長していってください」と言いたいですね。「じんざい」とは、漢字では「人材」と書きますが、組織の一員として「この人は必要ない、早く辞めてもらいたい」などと思われるようであれば、それは「人罪」ではないか、と思えます。また、「居ても居なくても変わらない」と思われるようなら、それは「人在」です。つまり、ただ組織の中に存在しているだけ、の人だと思うのです。皆さん一人ひとりが「絶対に居てもらわないと困る、必要な人」になった時、「人財」――まさに組織の一員として絶対に欠かすことできない財産――となるのだと思うのです。

最後に、「花よりも花を咲かせる土になれ」という言葉を覚えておいてほしいと思います。世の中に出ても、時として太陽の光の下で輝く者、まったそうでない者が出てきます。もちろん、状況が変われば立場が逆転することもありますが、大切のは、その状況で各々が各々の立場の気持ちを考えて行動することです。花はそれを咲かせる土がなければ、咲くことはありません。咲かせてくれる土があってこそ、初めて花は咲くのです。常に相手の立場に立ち、「皆さんが周りを花にできる」、そんな社会人へと成長していってもらいたいと思います。

城西国際大学で学ぶ後輩たちが幸せ多き人生になるよう、切に願っています。

リーグⅠ部昇格、インカレ出場・初勝利へ

練習に励む選手たち

女子ソフトボール部 新チームで挑んだ秋リーグで手応え

これまで女子ソフトボール部は、水田記念球場で練習していたが、東金キャンパス内のグラウンドに人工芝のソフトボール場が整備され、本拠地をここに移した。部員は次八（うちやつ）マネージャー1人で、新入生3人が加わった。

創部は2002年で、現在、指導するのは、経営情報学部の高橋光平准教授だ。2007年にJ－Uでの教員となり、翌年から女子ソフトボール部を任された。3年前の全日本大学選手権大会に8年ぶり2回目の出場を果たした。しかし、これまで全国大会では勝利を味わったことはない。

現在、目標としているのは5月の関東学生春季リーグ戦。2部（6校）で優勝し、入れ替え戦を勝ち抜くことだ。そうなれば全日本大学選手権大会への出場も見えてくる。そして初勝利――選手たちは意気込む。

投手陣は佐生裕衣（4年・千葉聖心）、小野塚菜奈（2年・千葉経済大附属）が中心。2018年の第18回関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦のⅡ部で2年ぶり4度目の優勝を果たしたが、先発は粟生、リリーフは小野塚とのパターンで試合に臨んできた。小野塚は、同リーグ戦の最優秀選手賞に選ばれている。

打撃陣は主将の石井麻璃乃（宇都宮文星女子大）、加納十海（江戸川）、溯山聖奈（東北生活文化大学）ら4年生で固める。昨年の秋季リーグで活躍した小林南美（2年・長野・篠ノ井）、山口優実（2年・千葉経済大附）、植村美波（2年・千葉経済大附）らが、4年生に続く。その山口と千葉経済大学附属高校出身の4人の2年生は、高校時代に日本一を経験している選手で、この1年間の成長ぶりが楽しみだ。また、伊藤絢美季、幸山桜子（ともに東北生活文化大学）ら有望新人が入ってきたのは心強い。

高橋監督は、新チームについて「とても素晴らしい環境が与えられて、これまでよりも練習が充実できたことが部にとって何よりも大きなプラスです。新チームで挑んだ秋のリーグで結果が出せたので手応えはあります。さらにそこに力のある新入生たちが加入されます。昨年は、春リーグで悔しい準優勝、インカレをあと一歩で逃したこと、秋リーグで優勝したものの大きく敗れたこと、非常に悔しい思いをして来ました。悔しさをバネに成長した選手たちともにリーグ一部昇格、インカレ出場、インカレでの初勝利を目指したいです」と話す。

■プロフィール
監督・高橋光平
コーチ・田邊敏広
主将・石井麻璃乃

月800キロの走り込みで切磋琢磨

有望新入生も加わり「チーム内競争は激しい」（大塚監督）

女子駅伝部

女子駅伝部は、2018年9月に千葉ニュータウン周回コース（6区間29・9㌔）で行われた第24回関東大学女子駅伝対校選手権に出場、1時間46分42秒で12位になった。念願の予選突破は逃したが、メンバー14・3年（当時）以下で、新チームにはこのレースの経験者が全員残り、ここに有望な新入生が加わった。佐美雪（4年・市立松戸）、小林希良莉主将（4年・長野東）、中島陽佳（3年・若草総合）、瀧澤水希乃（2年・宮城・常盤木）、安部日和（2年・山形短大）、加藤あや（2年・東北高）がその残ったメンバー。ここに、青森山田、益田東、東北高、銚子商業、流通経済柏の各高校から計5人の1年生が入ってきた。

2017年に6年ぶりに復帰した大塚正美監督は「新入生の中には、高校時代に十年生からレギュラーとして走った選手もおり、チーム内の競争は激しくなる」とレベルアップに期待する。

今年の大塚監督の選手育成の方針は、フルマラソン（42・195㌔）を走れる選手をつくることだ。これまで1日の練習の中では16㌔が最長のメニューだったが、これを20㌔以上に伸ばす。1か月間で総計800㌔を走破する計画だ。練習は、積極的休養の日曜日を除き、ジョギング、アップダウン走、インターバル走などを織り交ぜる。選手は、持久力向上を目指して走り込んでいる＝**写真**。

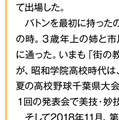
昨年の第24回関東大学女子駅伝対校選手権では、すでに「全日本」のシード権を得ている姉妹校の城西大には1時間42分18秒で8位だったJ－Uとのタイム差は4分30秒ほどだ。大塚監督は「全国大会出場のチームとの5分以内の差は、出場に向けての射程距離にあるということ、と受け止めています。選手たちには自分で工夫・研究して結果を残せ、失敗を恐れるな、と言いたい」と話す。

■大塚正美監督［経歴］
1960年8月生まれ。茨城県立水戸工業高校時代、全国高校駅伝大会に2回出場。1978年に日本体育大学に入学。1年生から4年生まで正月恒例の箱根駅伝に出場し、すべて区間賞を獲得した。1年の時に走った8区で区間新記録、4年の時は2区で区間新記録を樹立。この記録はそれぞれ15年間、13年間も破られなかった。現在、経営情報学部教授で「生涯スポーツ概論」「スポーツ社会学」などが専門。女子駅伝部は、全日本大学女子駅伝で最高で3位の座を占めた。2011年に監督を辞め、2017年に復帰した。

Cheer Up 応援歌

バトントワーリング全国大会に出場

――国際人文学部国際交流学科3年生 **牟田遥香さん**



バトン歴は約15年。2018年12月に幕張メッセで開催された第46回バトントワーリング全国大会に千葉県の代表チームの一員として出場した。

バトンを最初に持ったのは、5歳の幼稚園児の時。3歳年上の姉と市川市内のバトン教室に通った。いまも「街の教室」に週2回、通うが、昭和学院高校時代は、バトン部に所属し、夏の高校野球千葉県大会の応援や文化祭、年1回の発表会で美技・妙技を披露した。

そして2018年11月、第53回バトントワーリング関東大会の一般部門に、中学生、高校生、大学生、社会人の11人編成のチームで参加、金賞を受賞し、チームは全国大会に出場した。

全国大会では、ミュージカル「ニュージーズ」（Newsies）の曲に合わせて演技した。「ニュージーズ」は1899年にニューヨークで起こった実話をもとにしたミュージカルで、主人公は貧しい家庭に暮らす少年。親の手助けを少してもしようと、弟とともに新聞社から新聞を買取り、配達人として生計を立てていた。少年たちの苦しい生活、その葛藤、夢が描かれている。

牟田さんは、舞台で3分半、ひとりで演技し、バトンを回し、跳ね、踊った＝**写真**。バトンを落とすなどのミスや表現力、表情、感銘度が審査の基準になるという。

JIUでは、一時、サッカー部のマネージャーも務めた。「スポーツの心」も知る牟田さんは、こうエールを送る。

「バトンの大きな大会に10回以上、出場していますが、いつも緊張しすぎて直前になって気分が悪くなる時もあります。アスリートたちには、プレッシャーに負けず、落ち着いて冷静に試合、レースに臨んでほしいと思います」

将来はグランドスタッフとして空港で働きたい。一方で国際ボランティアにも興味を持ち続けている。夢は、東南アジアの子どもらにバトンを教えることだ、という。

わたしと学生スポーツ

人間的にも大きく成長して欲しい

教務課・田邊敏広さん

姉妹校の城西大学経済学部を卒業した。大学時代は硬式野球部に所属した。

硬球を握ったのは、小学校3年生の時だ。ボーイズリーグ（日本少年野球連盟）のクラブチームに入り、6年生の時に全国優勝を果たし、中学時代にも全国大会ベスト4に。高校野球の名門、土浦日大（茨城県）に入学。甲子園にはあと一歩届かなかったが、2年生の夏の県大会で準優勝に輝いた。

小山田保裕（土浦日大～城西大～広島）をはじめ、高校の先輩が多く活躍していた城西大学硬式野球部に入部したが、夢は「社会人になっても野球に携わること」、マネージメントを生かしたい、教職も目指したい」。プレーではなく、「主務」になった。部のスケジュールや予算管理、渉外業務、広報活動、チーム分析など、監督の右腕としてチームを支えた。

在学中にリーグ戦で2回優勝を経験し、明治神宮大会（全国大会）で準優勝を経験した。忘れられないのは、4年生の時、明治神宮大会の2回戦で、烏谷敬（阪神）、青木宣親（ヤクルト）らがいた強豪・早稲田大と対戦し、延長の末、惜敗した試合だ。

2004年4月にJIUの職員に。城西大学の硬式野球部の監督だった原田勝美さんが、当時、JIU硬式野球部の総監督を兼ねており、その勧めだった。

田邊さんのもう一つの「顔」は、女子ソフトボール部の指導である。現在、コーチ、部創設に携わり、ゼロからのスタートで部員の確保に苦労した。2008年、全国から集まった選手たちが4年生になった時に、関東学生ソフトボール選手権大会で優勝してインカレに出場を果たすまでになった。

田邊さんは、大学スポーツ協会（UNIVAS）の設立と、自分のスポーツ経験を踏まえながら「学生アスリートとしての競技的成長だけではなく、学業との両立、スポーツを通じた地域貢献活動、国際交流活動などを経験して、人間的にも大きく成長して欲しい」と話す。

2018東関東秋季リーグ戦 2年連続優勝・東日本大会出場

「愛され、応援されるチーム」（鴨川主将）

軟式野球部の選手たち

鴨川コーナー 軟式野球部

新チームでは主将の中倉隆雄（4年・木更津総合・経営情報）を中心として、昨年、ケガに泣かされた上田泰成（3年・九州学院・経営情報）、祐田真輝（同）の二大が復帰し、陣容を固める。昨年の東関東秋季リーグ戦では1年生ながら81㌔級でベスト16まで勝ちあがった長嶋大介（2年・長崎日大・経営情報）、同大会100㌔級でベスト8になった尾野翔大（3年・沼南・経営情報）が中心。ここに高橋光佑（4年・国学院栃木・経営情報）と、188㌢の長身、前沢耕哉（4年・文星芸大付・福祉総合）も加わる。昨年の秋季リーグ戦で取れた星数の町田仁（3年・武蔵野星・経営情報）らが控える。

2018年、東関東大学軟式野球連盟秋季リーグ戦では4年連続2度目の優勝を果たし、第39回東日本大学軟式野球選手権大会に出場した。

新チームには、その時のエーススズ保田虎太（3年・松山商業＝副主将）が残り、投手陣を支える。新主将の重松論（3年・今治北）は1年生の春からレギュラーをつかみ、昨年も「打の要」だった。それに松永誠人（3年・修徳）、浅野手海（2年・三条商業）、池内海斗（2年・松山商業）らが中心に控える。

今年、有望新人が入部した。正岡翔哉（松山商業）と菅大輝（宇和）は、ともに下手投げ投手で、相手打者を戸惑わす存在になりそう。捕手の久保田力（松山聖陵）は昨年の「春のセンバツ」に出場した甲子園組。だ。同じく捕手の山内敬太は、松山商業で4番を打った左スラッガーだ。

河上國男監督によると、体幹トレーニング、ランニングに力を入れている。安房キャンパスに通じる約2㌔の急坂を3回走る。この坂は、箱根駅伝の常連・早稲田大学の駅伝部が練習に使用することもあるという。

河上監督は「岡崎大地（前主将・宇和島南）らがいた旧チームに比べ、現段階では実力はまだが、ランニングなど半身強化の効果がこれから出てくると思う。1年生5人が即戦力として期待したい。また、重松主将は『大学の関係者、地元の人に愛され、応援されるチームにしていきたい』と話す。

■プロフィール
監督・清澤修明（経営情報学部教授）
主将・中倉隆雄（4年・木更津総合）
副主将・町田仁（3年・武蔵野星）

剣道部 目標に向かい日々黙々と精進

威風堂々"胆の座った"剣士へ

激戦区である2・IUから は男子が4人、女子が13人出場する。トーナメント戦で5人を勝ち抜けば、7月の「全日本学生」に出場できる。これまで、女子は6人がこの晴れ舞台を踏んでいる。男子も4人が出ている。男女とも「ダブル出場」は実現していない。そして、その先に控えているのは9月の団体戦、関東学生剣道優勝大会（全日本学生予選）である。

新チームの中心となるのは、男子では新将の赤尾隆介（経営情報4・東海大菅洋＝千葉）であるが、下田晃平（経営情報4年・高崎商大附＝群馬）、西宇涼真（経営情報3年・拓大紅陵＝千葉）、田崎一成（経営情報2年・阿蘇中央＝熊本）ら。高校の全国大会出場経験のある大野郁（経営情報・中央学院＝千葉）、強豪県で鍛えられた松本晃輔（経営情報・鹿本＝熊本）らが入学・入部した。

女子では、新主将の長塚日菜（経営情報4年・高知）が中心となり、折口凛（経営情報4年・鎮西＝熊本）、水戸葵子（経営情報）がチームをリードしつ、千葉県ジュニアを2連覇した高杉美咲（3年・五所川原商業）、経営情報）を核に、長身の泉栞恋（3年・青森北・経営情報）と、2018年、東関東大学軟式野球連盟秋季リーグ戦では4年連続2度目の優勝を果たし、第39回東日本大学軟式野球選手権大会に出場した。

新チームには、その時のエーススズ保田虎太（3年・松山商業＝副主将）が残り、投手陣を支える。新主将の重松論（3年・今治北）は1年生の春からレギュラーをつかみ、昨年も「打の要」だった。それに松永誠人（3年・修徳）、浅野手海（2年・三条商業）、池内海斗（2年・松山商業）らが中心に控える。

今年、有望新人が入部した。正岡翔哉（松山商業）と菅大輝（宇和）は、ともに下手投げ投手で、相手打者を戸惑わす存在になりそう。捕手の久保田力（松山聖陵）は昨年の「春のセンバツ」に出場した甲子園組。だ。同じく捕手の山内敬太は、松山商業で4番を打った左スラッガーだ。

河上國男監督によると、体幹トレーニング、ランニングに力を入れている。安房キャンパスに通じる約2㌔の急坂を3回走る。この坂は、箱根駅伝の常連・早稲田大学の駅伝部が練習に使用することもあるという。

河上監督は「岡崎大地（前主将・宇和島南）らがいた旧チームに比べ、現段階では実力はまだが、ランニングなど半身強化の効果がこれから出てくると思う。1年生5人が即戦力として期待したい。また、重松主将は『大学の関係者、地元の人に愛され、応援されるチームにしていきたい』と話す。

■プロフィール
部長・清澤修明（経営情報学部教授）
監督・今井英輝（同）
主将・男子・鈴木輝大（四段）
主将・女子・兵等日菜（四段）
助監督・新城巧己

柔道部 男子2年ぶり4回目・女子8年連続のインカレ出場へ

「ケガしない体」目指し基礎力養う

選手たちは、5月の関東学生柔道優勝大会を照準に練習に励む＝**写真**。3月末、福島県いわき市で東日本国際大学との合同合宿を組んだ。15年以 続く例の強化合宿をこなし、チームの士気は高まってきた。関東大会で上位に食い込めば全日本学生柔道優勝大会（6月）の出場権を得られる。この「インカレ」に男子は2年ぶり4回目、女子は8年連続出場を目指す。

新チームでは主将の中倉隆雄（4年・木更津総合・経営情報）を中心として、昨年、ケガに泣かされた上田泰成（3年・九州学院・経営情報）、祐田真輝（同）の二大が復帰し、陣容を固める。昨年の東関東秋季リーグ戦では1年生ながら81㌔級でベスト16まで勝ちあがった長嶋大介（2年・長崎日大・経営情報）、同大会100㌔級でベスト8になった尾野翔大（3年・沼南・経営情報）が中心。ここに高橋光佑（4年・国学院栃木・経営情報）と、188㌢の長身、前沢耕哉（4年・文星芸大付・福祉総合）も加わる。昨年の秋季リーグ戦で取れた星数の町田仁（3年・武蔵野星